

第57回区民車座集会意見交換内容（多摩区）

- 1 開催日時 令和5年3月26日（日） 午前10時から正午まで
- 2 場 所 多摩区役所生田出張所 3階多目的スペース
- 3 参加者等 参加者19名、傍聴者等25名 合計44名

<開会>

司会：定刻となりましたので、ただいまから、第57回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めます多摩区役所副区長の佐野と申します。よろしくお願いいたします。

今回は、公園緑地を支える区民協働の取組をテーマに、意見交換を行ってまいります。

本日は、日頃から公園の管理運営を担っていただいている愛護団体の皆様、公園に係る活動を行っている皆様、地域でボランティア活動を行っている皆様、地域や公園で活動する団体の支援を行っている皆様、さらに、多摩区以外の地域で公園に係る取組を行っている皆様にご参加をいただいております。皆様には、後ほど、自己紹介をいただきたいと存じます。

初めに、行政からの参加者を紹介させていただきます。福田紀彦川崎市長でございます。

市長：おはようございます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：藤井智弘多摩区長でございます。

藤井区長：よろしくお願いいたします。

司会：それでは、福田市長からご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、皆さん、おはようございます。車座集会にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

今年度は、前半がコロナでなかなか車座集会ができなかったのですが、この年度末に結構集中していて、この2か月くらいで結構な数をこなしているという感じですが、先月は麻生区で、同じように、公園の課題について議論をしまして、今回も多摩区でも公園のことについてと。

実は、これは川崎市内だけの問題ではなくて、全国で、実は公園の課題がとても大きくなってきています。そのことについて、みんなでいい知恵を出し合って、どうやったら課題について解決できるかというのを議論していきたいと思っています。

川崎という同じ地域でも川崎区から麻生区まで7区あって、それぞれに地域資源だとかバックグラウンド、歴史的なものとか、みんな違うので、それぞれのやり方があるのだらうと思います。ぜひ、今日はそんなところを皆さんでディスカッションできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

<参加者自己紹介>

司会：参加者の皆様に自己紹介をいただきます。

日頃の活動や、これまでの公園での活動について、お1人1分程度で紹介をお願いいたします。

それでは、塔ノ越里公園管理運営協議会の高橋様から順番にお願いいたします。

高橋さん：塔ノ越里公園管理運営協議会の高橋と申します。よろしくお願いたします。

私どもは、日頃、公園と花壇を通じて幅広い年齢層とレクリエーションを行い、公園を中心として小さな町内会というような、地域で発生した問題等をそこで解決していきましようというような活動を行っております。そして、公園の中には落ち葉等が非常に多く落ちます。そこに手作りで腐葉土ボックスを作成していただきまして、落ち葉ごみのゼロ化を実現しております。そのような形で活動をさせていただいております。

川鍋さん：私、登戸多摩川町会の川鍋と申します。どうぞよろしくお願いたします。

当町会は、小田急線の登戸駅の区画整理を行っています西側の一部と、登戸新町の一部で、約1,000世帯ぐらいのところですが、私どもは、登戸第1公園、皆さんには三角公園ということで親しんでいただいているんですけれども、多摩川町会はその活動を拠点としておりまして、夏は盆踊りですとか、いろんな行事で公園を利用させてもらっています。

そして、当町会は公園の掃除を年間通して第1と第3日曜日に、必ず班と組に分かれまして10人前後で掃除を行っております。今は桜が咲いていまして、先ほど落ち葉の話があり参考にさせていただこうと思っておりますけど、落ち葉が多く、ごみがやっぱり出ます。それは、公園の掃除で全部できます。

そして、公園の先に小さな5坪ぐらいの花壇がありまして、これも老人会と一緒に、今いろんなチューリップとかが咲いております。あと、公園を利用している保育園があるんですね。保育園の保育士さんが結構若い方で、私ども町会と保育士さんを巻き込んで、何かイベントができないかと私は考えています。

櫻井さん：おはようございます。多摩新町自治会の会長をしております櫻井でございます。

私も、会長9年目に入っているところでございますが、その前にいろいろ役員をやりまして、都合、トータルで約16年役員をやっています。

皆さんもご存じのように、高齢化に伴って非常に公園関係の清掃関係も大分鈍くなってきていると。1番最大で、私どもでは、今現在、公園関係で6つ持っているんですね。それで、1番最大なのが、東名堰第2公園といたしまして、東名が上についている、下の公園を管理しているわけです。そこで、我々は常に思うんですが、こういうバスケット場とかですと、近隣の方はあまり利用しなくて、遠くから、例えば、我々でいうと長尾のほうから8団体が来てバスケット場でやっているわけです。それを我々が管理しているということ。

もう1つは、自治会に位置している、多摩新の自治会の西公園というのは、自前でやっているんですけど、トータルで6つの公園を管理しているということ。それは、自前のほうは自治会の役員さんが、皆さんが手を取り合って、冬になると夏ミカンができるとか、やっぱりそういうものを楽しみにしながら、公園を管理していると。やっぱりここがキーワードかなと思いますね。やっぱり、楽しみながら、そういうものに対してみんながわあっと集まってきて、そこで焼き芋を作ったり、それが1つの楽しみだということで、今、そういう中で推移しているところでございます。

公園管理は大変ですけど、やっぱり仲よくやっていきたいなと、そういう気持ちは今も持っているところでございます。

塩沢さん：三田第4公園愛護会の塩沢と申します。

私自身は太極拳の教師をやっている関係で、12、3年前から、公園で公園太極拳をやっています。そのメンバーと、それから、みた・まちもりカフェに集うメンバーで愛護会の活動を立ち上げて、今、4年ぐらいやっています。

それで、その後、公園に花壇があったらいいなと思っていたところ、なかなか忙しくてできなかったんですけども、コロナになって、運動不足なので毎日公園で太極拳をやるようになりました。その数名のメンバーでまた花壇の活動を始めて、今は花壇と清掃もほぼ毎日のように必要だと思えばやれるような形になっています。

課題としては、非常にごみが散乱している中でそれを毎日拾っているうちに、だんだんこちらの気持ちが悪くなるんですね。それで、何か精神修養が必要だと思いながら、やっているところが課題でございます。

佐々木さん：登戸2号街区公園の準備会の佐々木暁美と申します。

準備会ということで、まだ公園ができていないところでつくったグループになります。2025年、2年後の春に完成予定の、区画整理の中の中心にある公園になります。現在は毎月1回ミーティングを行ってまして、そこで公園をどんな公園にするかというのを、市民が集まって話し合いもしております。

同時に、暫定的な広場も一部があるので、そのお手入れも毎月1回やってコミュニケーションを取りながら会を運営しています。インスタグラムも始めまして、みんなのこかげというんですけど、それで情報発信もするようにしています。

月1のミーティングは、参加者自身が計画のイメージをどんどん提案して、皆さんでどんな公園ができていけば、今まで何っているような課題の解決につながるようになるのかと、愛される公園になるのかというのを、結構時間をかけて、話し合いをしながらやっております。

公園が、区画整理で新しいまちができるという中でかなり重要な場所になると思っているので、それもモチベーションの1つになっています。あとは、パークPFIでカフェを導入するというようなことも考えてまして、一部の人ではなくいろんな人が関われるきっかけになるのではないかとということで、ぜひ導入したいという意見で、その方向で進んでいます。

区画整理で、かなり庭木とか、木がなくなってしまったと嘆く声がたくさん出てまして、できるだけお手入れを簡単という方向だけじゃなくて、みんなに愛される木陰のあるような公園が造れたらいいなという気持ちでやっております。

有北さん：たまたま子育てネットワークの有北と申します。

私どもは、皆さんのお手元にあります多摩区公園BOOKというのを長年作っております。これは、たまたま子育てまつりというお祭りをきっかけに集まった有志が、子育て環境をよくしたいということで、区役所と共同で、平成22年からこのブックの形を作り始めました。ホームページのほうでも発表しています。

今年度は、4度目の増補改訂版を作成しております。先日納品したばかりですが、今回多摩区内の139の公園を載せることができます。まだ、載せられない公園、これからできる公園もありますので、また4年後とかに、また改訂版を作りたいと思っています。

公園BOOKを作るにあたっては、地域の皆さん、親子さん、シニアさん、皆さんに公園探検隊ということでご協力をいただいております。

奥川さん：多摩区のこどもの外遊び交流委員会で委員長をやっております奥川と申します。

委員会は、いろいろな外遊び団体の支援が基本の活動内容ですけども、私自身も1つの外遊び企画をやっていて、話がだからごっちゃになるかもしれませんが、外遊びの企画の方じゃなくて、委員会、支援のほうですね。支援のほうとしては、公園をどのくらい使っているのかよく分からない、外遊びの会を立ち上げるにあたって、入り口がよく分からない、どう使っているのか分からない。どうも禁止事

項がいろいろあるようで、使いにくい、入りにくいと。そもそも、どこのドアをたたいていいのかわからない。

今、こちらでおっしゃられたように、もうやる前から、どんなことがやりたいのか、どんどんまとめていってくださるような、そういう動きが必要じゃないかということで、後ほどまた提案させていただきたいと思っています。よろしくをお願いします。

稲田さん：こんにちは。多摩区でプレーパークをやっちゃおう会の稲田と申します。

私たちは、多摩区内で子供たちが思い切り遊んで育つ場、プレーパークという場を多摩区内4か所でやっております。実際に私が関わっているのは、中野島での遊び場ですけれども、月1回の親子の遊び場、それから、毎週水曜日、小学生が帰ってきてから遊ぶといった活動をしてしております。それからそういった活動を知っていただくために、年1回大きなお祭りもしております。

そのほかにも、遊び場を通して、お母さん、お父さんたちの子育て相談であったりだとか、いろんな地域団体さんと活動を共有するというようなこともしております。

今日は、逆に保全という部分で活動されている方だったり、ぜひぜひつながらせてもらえたらいいなと思っています。

高木さん：こんにちは。社会福祉法人はぐるまの会というところで、知的障害の方たちの施設です。

場所は、中之島中学校の近くの二ヶ領用水沿いにあるので、春は今、桜ですかね。秋はイチョウが見事に咲くとか、色づくところなので、たくさんの方が施設の前を行き交うという好条件のところにあります。

私たちは公園の管理というよりも、日々公園を使う側で、マラソンの後の休憩所とか、少し整理体操をするというところで、お世話になっています。その恩返しということで時々清掃をするんですけど、でかい鉄パイプが出てきたり、ごみだらけの袋を抱えてきたりするんですが、それをどうやって処理するかというところ、集まってきたごみの問題は日々悩むところではあります。

これから、桜と、あと菜の花が咲くところなんですけど、その菜の花の咲くところも自然に消滅してしまって、幼稚園の子たち、中学生がそこで写真撮影をよくしていたんですが、その菜の花畑がなくなってしまったということで、それは誰が作っていたんだろうというも最近不思議に思っているところです。

西村さん：明治大学ボランティアサークルLINKsの西村です。

具体的にどんな活動をしているかというのと、子供に関する取組、あとは清掃活動であったりとか、あとパントリー活動であったりとか、様々な範囲で活動しています。特に、子供に関する取組というのを多く行ってまして、例えば児童施設に行って、そこでイベントを開いて交流をしたりとか、あとは海外から移住されてきた児童に対して、日本語支援をしたりとか、いろいろな活動をしています。

今回は、公園でのボランティア活動というのはあまり行ってないんですけど、これを機会にボランティアで公園で行う活動を増やして行って、地域に根差したボランティア団体になっていければと思います。本日はよろしくをお願いします。

伊藤さん：カリタス女子中学高等学校のバスケット部です。

私たちはバスケを普段部活でやりつつ、奉仕活動を行っていて、フードバンクやカリタス幼稚園との交流だったり、あと、川崎市公園緑地協会さんと通学路の花壇の選定や竹林整備などを行っています。

今回の交流を通して、活動の幅を広げていきたいと思っています。

山田さん：同じく、カリタス女子中学高等学校の山田です。よろしくお願いします。

京野さん：こんにちは。私、多摩区ソーシャルデザインセンターの京野由依と申します。

私たちの団体は、市制100周年の実行委員会に参加しております。先日の金曜日にも、その中で私たちの夢を語らせていただきました。その夢というのは、多摩区を市民が世界に誇る町にするということです。

私たちの活動といたしましては、大きく2つありまして、1つ目としては、人と人、そして地域をつなぐ。2つ目は、地域にまちの広場、すなわち居場所をつくるという活動を2つの軸として行っております。

例えば公園を使つての活動でいいますと、定期的にドッジボール講座であったり、2月には登戸・たまがわうんどうかいを開催いたしました。4月には、皆さん聞いたことがあるかもしれないんですけど、登戸・たまがわマルシェというものを開催いたします。昨年度は5万人という、本当にたくさんの地域の方々にお越しいただきました。福田市長にもお越しただいて、本当にありがとうございます。来年度もお越しただけるのを楽しみにしております。

このように、私たちは人と人をつなぐ、また地域をつなぐ、そして地域に居場所をつくるという活動を行っております。

佐山さん：同じく、多摩区ソーシャルデザインセンターの佐山と申します。

大学では造園学、緑地学を専攻しております。本日はよろしくお願いします。

浜田さん：おはようございます。公益財団法人川崎市公園緑地協会から参りました浜田と野牛でございます。

当協会は、川崎市内の緑化推進と緑のボランティアさんの育成、そして活動支援を中心に、里山や花と緑に関する講座や教室、イベントなどを行っております。講座等は、子供から大人まで幅広い世代の人たちと一緒に、この川崎の花と緑を守り、育てていく活動をしている団体でございます。

この多摩区の公園緑地におきましても、様々な花と緑に関する取組や、緑の活動団体、そしてまたボランティアの皆さんの活動支援を行っております。

今日は多摩区の参加をされている皆様と一緒に、この公園緑地の維持管理と活用につきまして、1つでもお手伝いをすることができましたらと思い、参加をさせていただきました。今日はよろしくお願いします。

寺田さん：おはようございます。横浜市港北区にある師岡打越第3公園という公園から参りました、私、寺田有梨と主人の寺田大地です。よろしくお願いします。

私たちの公園、とても小さな、町の住宅街にある公園なんですけれども、2020年に30年ほど続いた公園愛護会を、先輩方から引き継ぐこととなりました。今、2、3年ほど、試行錯誤をしながら活動しております。後ほど詳しくご説明させていただきますので、どうぞ、皆様、よろしくお願いします。

佐藤さん：こんにちは。NPO birthの佐藤と申します。

緑のまちづくりを、公園緑地を拠点として活動しております。また、昨年は、国土交通省で都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会という検討会が開催されまして、そちらの委員も務めさせていただきました。都市公園新時代ということで、公園が生きる、人がつながる、町が変わるという内容で提言を出しております。

今、公園というのは、非常に地域の課題を解決する場として、またコミュニティーの絆を紡ぐ場として、非常に注目されておりまして、特に、緑、公園だけではなくて、教育、福祉、医療など、様々な分野から熱い目が向けられています。そういったような方々となつなげていくためにも、こういう皆さんとの集会、話合いの場というのは本当に大事だなと思っております。また、後ほどお話しさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：参加者の皆様、ありがとうございました。

それでは、本日の進行方法をご説明いたします。

この後、プログラム2、テーマ説明・事例紹介として、公園に係る区民協働の取組の現状・課題について簡単に説明いたします。

その中で、本日のテーマに係る取組事例として、NPO birth様、師岡打越第3公園愛護会様の取組を紹介いたします。

意見交換は、大きく2つの内容で行ってまいります。

1つ目は愛護活動に係る課題の解決に向けて、2つ目はより多くの人を巻き込むためのアイデアの実現に向けてでございます。

参加者の皆様には、本日の車座集會に先立ち、事前アンケートをお願いしております。アンケートで回答いただいた内容も参考にしながら、意見交換を行ってまいりたいと存じます。

それでは、説明に移らせていただきます。

<テーマ説明・事例紹介>

多摩区役所道路公園センター：多摩区役所の道路公園センターの今井と申します。私から、「公園緑地を支える区民協働の取組」の現状や課題について、簡単に説明させていただきます。

多摩区は豊かな自然環境を有し、多摩丘陵の各拠点においては、区民協働による多様な活動が展開されていますが、一方で、身近な街区公園等では、高齢化や担い手不足といった協働による活動の持続性を確保する上での課題も生じています。

多摩区内では、公園緑地愛護会、管理運営協議会が結成され、区民協働で管理いただいている公園の割合は66.3%でありまして、市内では麻生区に次いで、2番目に低い割合となっております。

次に、令和3年度に実施した公園愛護団体へのアンケートの結果でございますが、2の公園愛護団体の会員の年齢構成ですが、会員の55%、半数を超える方が70代以上で、多摩区は全市平均より高くなっております。また、3の活動する上での課題ですが、会員の減少、負担の偏りと答えた団体の割合はいずれも42.5%で、多摩区は市内でも最も高くなっております。本市の貴重な財産である市民協働の取組を次の世代へ引き継ぎ、さらに発展させていくため、その持続性を確保することが喫緊の課題となっております。

こうした課題を踏まえ、市の取組の方向性といたしましては、これまで協働の多くの取組については、左側の現状イメージのように、管理者主体で取組を進めてまいりましたが、持続的な管理運営を目指すためには、右側の目指すべき活動のイメージのように、より多くの市民に関わっていただき、新たな担い手を増やし、「市民等のしたい」ことが実現しやすく、また「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」を目指すこととしています。

また、川崎市は令和6年に市制100周年を迎え、その象徴的な事業として、花と緑の祭典全国都市緑化かわさきフェアを開催いたします。フェアをきっかけに、私たちの日常の暮らしの中のみどりを通じて、人と人、人と暮らしが緩やかにつながり、心豊かな暮らしを生み出してまいります。開催時期は令和6年度の秋と春で、愛称はGreen For All KAWASAKI 2024としていま

す。

フェアのコア会場を含むエリアとして、本市南部の富士見公園周辺、中部の等々力緑地周辺とともに、北部はこの多摩区の生田緑地周辺を設定しています。また、本日のテーマである、身近な公園についても、協賛・連携会場として位置づけており、市内全域で多様な主体と協働の取組を展開してまいります。

本日はこうした現状、課題、また今後の緑化フェアとさらにその先の公園緑地の区民協働を見据えて、皆様から様々なご意見やアイデアをいただきたく存じます。

なお、意見交換に入る前に、公園緑地を拠点に多様な主体を連携した幅広い取組実績のある、西東京市のNPO birthの事務局長佐藤様から、事例紹介をいただきたいと存じます。

佐藤さん：こんにちは。ただいまご紹介に預かりましたNPO birth佐藤です。

本日は、私たちが実践しています公園緑地を拠点とした緑のまちづくりについて、お話をさせていただきます。

NPO birthという団体ですが、緑の中間支援組織と呼ばれています。公園緑地を拠点をとしまして、地域の様々な方々とパートナーシップで、緑を生かしたまちづくりを行っています。

具体的には、公園などの指定管理や環境保全、環境教育、利活用活性化などを行っています。緑の中間支援組織という言葉は、あまり聞かれたことがないかもしれませんが、海外など欧米のほうでは、非常に多くの緑の中間支援組織が活躍して、たくさんのボランティアの方々が活躍されています。

私たちが行っているのは、公園や緑が持っている力をまちづくりに生かすということです。ただ公園があるだけでは、その力は発揮されません。そこで、公園からまちづくりを行うという視点で様々なプログラムを実践しています。

では、公園からのまちづくりについて、その考え方と事例をご紹介します。

私たちは、公園と地域、それぞれの特性を生かしたプログラムを作っています。公園には様々な特性があり、また、地域にも様々な特性があります。どんな公園なのか、どんな利用者があるのか、この地域はどんな場所で、どんな課題があるのか、そういったことを調べます。そして、地域の皆さん、産官学民、様々な方々とともに公園づくりの方向性を考えて、公園での市民企画に反映させていきます。このような手順を踏むことで、公園と地域の魅力がより引き出されますし、また、地域の事情に即した企画が実現していきます。

では、事例を幾つか紹介していきます。

例えば、この公園、開園50年もたつ、古い公園です。遊具はもう老朽化してしまって、公園全体が暗い雰囲気になっていました。自治会は高齢化していて、コロナ禍もあって夏祭りなどのイベントも中止、でも周りには公園がないので、子供たちが結構たくさん来るということでしたので、多世代の方々が楽しみながら交流できる場をつくろうと、皆さんでできることを考えまして、一緒に公園のお手入れをしようとなりました。

ペンキが剥げてしまった遊具をみんなで塗ったら、どんどん親子が集まってきて、楽しくペンキ塗りをしました。それで、自治会のメンバーの方々もすっかり元気になって、次は、じゃあ、草ぼうぼうの場所を刈って、みんなで花を植えようかというようなことで、次々に新しい活動が始まっています。公園もすっきりきれいになりまして、非常に明るい雰囲気になりました。

こちらの公園、ちょっと広い公園で、広い原っぱがあります。園内にはお店がなくて、公園からも店舗が遠いという、そういう課題がありました。周辺の住宅地には、子育て世代とか、また独り暮らしの高齢者が多く住んでいると。市内には地域に根差したパン屋さんやカフェがありました。

そこで、この原っぱを生かして、地域の人が出会えるカフェ空間をつくろうということになりまして、サンデーパークカフェと銘打ちまして、週末カフェをみんなで実現させました。パン屋さんの移動販売

車や、また地元の野菜を使ったカレー屋さんが出店しています。また、市民によるライブパフォーマンスとか、ヨガ、クラフトワークショップなどが毎週開かれて、市民の皆さんのチャレンジの場所にもなっています。

次の公園ですね。こんな公園、よく街角にあるかと思いますが、あまり使われている様子がない公園でした。ただ、ちょっと開放的な、オープンな雰囲気があります。公園の隣には農園があって、保育園もあると。また、市内の大学がまちづくりの研究をしたいということで、場所を探していました。

そこで、小さな公園を楽しむ社会実験を、大学さんともしてみようということで、市民や農家の方々とか、大学生、一緒になって、食と農をテーマに、小さなイベントを開きました。野菜の絵のコンクールをしたり、公園に外用のソファを置いてみたり、いろんな企画をやってみて、小さな公園の可能性がすごく広がった事例です。

また、こちらの公園ですね。ちょっと暗い雰囲気、使う人がもういなくなってしまったような児童遊園で、植物も、またベンチもあるのですが、何だかとてもくたびれてしまっていると。でも、すごく閑静ないい住宅街にあって、不釣り合いな場所になってしまっていました。実はここ、東京の三鷹市なんですけど、公園にコミュニティーガーデンを毎年つくろうという事業がありました。

そこで、住民の皆さんと一緒にデザインから話し合っ、おしゃれなコミュニティーガーデンをみんなで作ろうということになりました。皆さんで話し合っ、こんなところにしようとデザインを考えたり、みんなでお花を植えたりしたんですね。本当にこんな場所ができるのかなと、皆さん、半信半疑だったんですけど、本当に構想どおりの場所が完成しまして、みんなが集うホットスポットになりました。

名前もスポットガーデン、ここ、90平米しかないんですけど、すごくいい場所になりまして、もう15年ぐらい前に、実は造ったガーデンなんですけど、私、先週も行ってきまして、いまだに皆さん、毎月お手入れをして、こうやって集まって、楽しくわいわい、コミュニティーの拠点になっています。

なかなか整備工事まではできないということでも、市民自身でできるガーデニングのプロジェクトもいろいろあります。

これは、宅地開発のときの提供公園、よくある小さな公園で、でも住民の通り抜けのルートになっているような、そんな公園になっていました。住宅が密集している場所ですが、実は、近くでガーデニングの市民団体さんが活動していたんですね。

そこで、みんなが親しめる個性ある公園にしたいなということで、公園丸ごと、ハーブガーデンにすることになりました。ハーブはクラフトなどにも使えますし、いろんなことに使えるので、収穫も楽しめますし、地域の憩いの場所になりました。

こんなふうに、公園と地域の特性を生かしながら、市民の方々、いろんな方々の力を借りて公園の利活用、活性化をしております。

以上、事例でした。

最後に、市民と一緒に小さな公園の利活用を推進する、西東京市の取組をご紹介します。みんなで育てる小さな公園プロジェクトといいます。

西東京市には全部で270か所の公園がありますが、そのうち54公園が指定管理者になっています。このピンクと黄色の場所ですね、NPO birthと造園会社さんが一緒に指定管理を行っています。一番大きな公園は4ヘクタールあるんですけど、一番小さなところは16平米しかないという、非常にいろんな公園があり、どの町にも、こちらにもあるような公園がたくさんあります。

西東京市では、こういう公園の利活用を図るにあたりまして、市民参加型の公園調査を行いました。調査を市民自身がすることで、公園や地域が抱えている課題にも気づくことができますし、その地域の実情に合ったプログラムやアイデアが生まれるからですね。そこから生まれたプロジェクトもたくさん

ありました。

また、市のほうでは、このプロジェクトの成果も参考に、公園づくりの方針を定めています。この4番、5番などが小さな公園などにちょうど当てはまる、協働とか、魅力的に使いこなそうなんてありません。

小さな公園プロジェクトでは、行政側、指定管理者側、また市民と一緒に公園を活性化するという仕組みをつくっています。市民との協働が大きなカギなので、指定管理者側には、NPO birthのパークコーディネーターという役職が入りまして、公園協議会の運営とか、企画実現のサポートとか、市民とそれから官と民をつなぐという役割を行っています。

以上、私からの話題提供でした。人も自然もまちも元気になる公園づくり、川崎市でも既にいろいろな取組があると思いますが、私の話から、何かご参考にしていただけたらうれしく思います。

以上、ご清聴ありがとうございました。

多摩区役所道路公園センター：佐藤様、ありがとうございました。

それでは、この後、皆様には1つ目の意見交換として、「愛護活動に係る課題の解決」に向けた話し合いを行っていただきますが、意見交換は画面でお示した流れで進めさせていただきます。

初めに、愛護活動に係る課題についてですが、参加者事前アンケートでは、本日ご参加いただいている愛護活動団体の皆様から日頃愛護活動を行う上での課題として、会員の高齢化、若い世代の参加が少ない、人員確保、手が回らない、持続可能な管理、多世代の関わる公園といった回答を多くいただいております。本日の意見交換では、主にこれらの課題をキーワードとして取り上げ、解決に向けた意見交換を行ってまいりたいと存じます。

ここで、これらの課題のうち、主に若い世代の参加や多世代に関わる公園といった課題の解決に向けたヒントとなる活動を行っている、横浜市港北区の師岡打越第3公園愛護会様から事例紹介をしていただき、その後、意見交換に入ってまいります。

寺田さん：ただいま、ご紹介にあずかりました、師岡打越第3公園の寺田と申します。我々、先ほどのNPO birthさんのようにすばらしい企画にあふれたというわけではないんですが、一住人の活動として聞いていただければと思います。

まず、公園の概要ですね。こちら、写真を見てお分かりいただけるとおり、住宅街にある何の変哲もないというか、普通の公園になります。

ここから、愛護会の歩みについて、少しだけご紹介させていただきます。まず愛護会の結成が大体30年前、当時、近隣に住む50代前後の方々を中心に結成されて、従来メンバー、花が大好きということもあって、いろいろと熱心に活動されていたようです。

その後、この辺りから、多分どこの公園さんでも出てくる課題になってくるんじゃないかなとは思いますが、やはりメイン花壇のところの雑草ですね。この辺りが勢力を増してきて、従来植えていた花がなかなか育たないと。活動をしても、この雑草取りだけで終わってしまうみたいなことが続いていたというところなんです。

ちょうどその頃に、我々を含め若い世代がこの地域に移り住んできて、その従来メンバーの方々が町内会の案内とともに愛護会をやっているから来なさいよということで、緩やかに巻き込まれたという形になって、半ば強制という形で入っていたんですね。新しい家族も含めて参加するようになっていました。活動の内容としては、今までと変わらずといったところでした。

その後、2020年になりまして、従来のメンバーの会長さんから、我々世代に、愛護会の役員を引き継がないかというご相談がございまして、今、引き継いで活動をしているところでございます。

やっている内容としては、当然行政とのやり取りですとか、会計ですとか、あと月1回開催するときの日程の決定だとか、声かけだとか、あと何をやるかといったところの企画が中心になっています。ちょうど、その、2020年なのでコロナ禍なので、私自身もそうですし、新しく入ったファミリー層のメンバーたちも、公園で過ごす時間というのが非常に多かったんですね。

そのときに、いろいろな人々がこの公園って訪れているというところ、いろんな活用の仕方をしていくところを実感しまして、四季折々の植物を楽しめて、安全で居心地がいい、持続可能な公園を目指せないかという形で、従来メンバーの方にも、そのまま活動は残ってもらって、アドバイスをいただきながらやっているという状況でございます。

今の公園の花壇、こんな形ですね。これは春ですね。

そのまま、植え替えをせずに、5月頃になるとこういった形に変わっていきます。ローメンテというところをなるべく目指しています。これ、夏ですね。

これは秋ですね。稲穂が非常にきれいな形ですね。

これ、早春ですね。

毎回、写真を撮って、みんなに共有するというをやっております。

これ、うちの子供ですけれども、近所の皆さんとも非常に打ち解けているといったところでございます。

これはちょっと、我々としては一番大きなイベントとしているんですけど、球根をミックスして、花壇にばらまくというイベントですね。子どもたちからも非常に大人気です。こんな形で、一斉に皆さんでまくということをやっています。

今年は近所の保育園のイベントにも採用されて、一緒に植付けをやりました。

あと、我々子育て世代が愛護会活動をやる上で、結構メリットがあるなど感じているところもありまして、ちょっとそこを共有させてください。

まず、子供たちと土に触れる機会というのができるというところ。よく話とかを聞くと、お金を出して農地を借りてやっているみたいな話もあるんですが、家の前でできますというところ、非常にいいと思っています。

あと、ご近所、楽しくなりますし、街の景観を自分たちで変えられる、作れる、きれいにできるというのが非常に魅力に感じています。

あとは、季節の変化、これほど楽しいものなのかとちょっと思っているところなんですけど、春が訪れる、植物が芽吹くみたいなのを見つけれられるようになるというのは、すばらしいことだと思っています。

あと、最後に、我々若い世代にうまく引き継いでいくためにどうすればいいのかというところなんですけれども、やっぱり知ってもらおうというところが1番の大きな課題かと思っています。やれば楽しいんですけど、どうやってやればいいのかというのは、なかなか分からない。何をやっているか分からない。ちょっと何か義務的になっちゃうんじゃないかみたいなのを、もともと感じていたところもありましたので、やってみると楽しい、これを発信するというのは大事かと思っています。

あとは、負担は少なく、楽しみは大きくというところで、我々、やっぱり子育て世代だと、やりたいこともありますし、やらなきゃいけないこともある中で、義務的になってしまうとどうしても続かないので、気が向いたときに来ていただければいいよというところ。

あとは、なるべく、植え替えが少ないだとか、雑草が生えにくい仕組みを作ってあげる。そうするといいかなど。あとは、落ち葉集めだけだとちょっと厳しいところもあるので、やっぱりそれをイベント化してあげるということが非常に重要かと思えます。

以上で、簡単ではございますが、我々の事例紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

多摩区役所道路公園センター：寺田様、ありがとうございました。

<意見交換>

司会：それではここから、1つ目のテーマとなります、「愛護活動に係る課題解決」に向けて、市長と皆様で意見交換をしていただきたいと思います。

市長：改めてよろしくお願ひいたします。

NPO birth様と、それから、寺田様からご紹介いただきました。すごくそれぞれにヒントがあったと思います。あまり私がしゃべっちゃいけないですけど、NPO birthさんのところでご紹介いただいたのは、やっぱりそれぞれの公園の特性を知る、そして地域の特性をまず知ってからというのがありますよね。

寺田様の話にしても、少し小さな面積の公園をどう活用するかというのは、大きめの公園と小さめの公園のところでは、ちょっと事情が違うところがあって、様々だから特性をまずしっかりみんなで考えて、どう活用していくべきなのかということを知ることが、すごく大事だということを、まずは感想として思いました。本当にすばらしい事例紹介、ありがとうございました。

さて、今のお話を受けてということもそうですし、皆さんからも自己紹介の中からもいろいろなすばらしいワードが出てきたと思いますけれども、課題は今、大体共有できたと思います。皆さんからのアンケート調査でも、それから、区役所がやらせていただいた調査でも、なかなか課題は出てきていると。

どうやって維持管理をしていくのか、これから持続可能なのかということと、むしろもっと皆さん、前に進んでいて、多世代で交じり合いたいというのは、今、実際に管理運営をやっている愛護団体の皆さんからも、それぞれご発言があったと思います。少し、冒頭、5団体から、愛護団体の皆さんから、こういう課題があるという話を聞いて、こんなことをやってみたいというものが感想を含めてありましたら、少しご発言をいただきたいと思います。

それでは、川鍋さん、いかがでございましょうか。一言目、口火を切っていただけますか。

川鍋さん：第1公園、三角公園って先ほど申し上げた小さな公園ですけど、三角のちょうど頂点のところに、花壇が少しあるんです。これは、今までぼうぼうになっていて、サツキが植わっていて、誰も刈る人もいなくて、それをもう全部取っ払っちゃおうということで、12、3年前にやって、今はきれいに花壇になって、花が植えてあります。

道路公園センターから、いつも、春、秋、苗を少しずつ頂いて、最初は私が植えていたんですけど、だんだん、老人会の人をお願いして、皆さん、お好きな方、やってくださいよということでやってくれたら、今は、桜が満開ですけども、チューリップもすごく満開になっていまして、きれいになっています。ごみも捨てる人が少なくなりましたので、今後は少しずつやっていこうかと思っています。

近くに保育園があるんですけど、保育士さんは若い方が多いので、保育士さんと子供さんを含めて、幼児の方が多んですけど、花壇づくりをちょっと増やそうかなと、今、考えておりまして、イベントでも、町会と子ども会と保育士さんのコラボができないかと考えております。

市長：ありがとうございます。

これも川鍋さんのすごくいいリーダーシップだと思うんですね、自分だけで全部抱えない。老人会の皆さんにお手伝いをいただいて、仕事をちょっと切り分けたということで、うまく活性化したことと、新しい挑戦で、保育園という話がありました。

実は、何年前か前、コロナ禍前だったと思いますけど、この車座集会で、保育士さんを集めた回があっ

たんです。そうしたら、地域に、どの町会に自分の保育園が属しているのか分からないという人たちが圧倒的に多くて、え、そうなんですか、それはよくないと、もうすぐにつながましようということで、実は公園をうまく使っていただいているから、一緒にコラボをやりましようということで、中原区でそういう会が何年前にありました。

ぜひ、そういう多世代の取組に挑戦していただくと、もっと魅力が増すのではないかと思います。

櫻井会長のところは、6つの公園を管理されているということで、これはまたすごい、それぞれに特色のある公園があると思いますが、いかがでしょうか。

櫻井さん：6つの公園をやっていて、特に大きいのは、東名堰第2公園ですから、そこで、今、我々が特に関心を持っているのは、地域の住民の方が球場とか公園を比較的利用されていない。遠くの、例えば長尾の方から自転車で8団体、お子さんとお母さんが一緒に、旦那さん含めて、バスケット場に遊びに来ると。なぜ地元の人たちが利用できないのかと、利用する案がなかなか我々も見つかりません。

それで1つ思ったのが、やっぱり地域の人というのは、音とか見るものに敏感なわけですよ。やっぱり地域の、遠くから来ている人は、関心はあると思いますが、そちらのほうに、長時間であっても、せめて1時間ぐらい遊んで、またすぐ帰ってしまう。じゃあ、地域の人は何で来ないのと。

そこら辺の感性の豊かさや、本当の地域の周りの人たちを、どうその仲間に入れるかというのが、我々の今、課題と思っているところです。

市長：バスケットボールのコートがあるということで、なかなかバスケットをやれるところが少ないということが1つの課題かと思っていますが、実は、私たちもバスケットボールのすごく要望が多いものですから、至るところで、少し今、挑戦をしています。できる場所を探すということと、それから学校をもっと使ってもらおうということで、校庭開放プロジェクトというのをやって、ボール遊びができない公園がすごく多いので、むしろ学校に戻そうということでやっていくというのも1つです。

それから、今、櫻井さんからお話があって、地域の人たちがいないのに、ほかのところからやってくると。管理だけは私たちがやっているという、このジレンマですね。このままの対立構図ではよくないというふうな、櫻井会長もおっしゃっていると。そういう、何かのチップが要るんですよ。そうですね。何かいいアイデアありますか。どうでしょうか。お願いします

稲田さん：櫻井会長さんのところの近くで、プレーパークをやっていたグループがあるかと思います。ただ、コロナになってしまって、人を集めるということの、住民の方からの視線がすごく気になるということで、止めているという状況が続いてしまって、だんだんとできなくなったという話を、ちょっと聞きました。

まちの中の、いつものお祭りだとかそういったことが、今、ない状態でしょうかね。何かそういったことが、まず進んでいくと、ほかの集まりだとかがやりやすくなるのかと考えています。

市長：いずれにしても、みんなで顔を合わせて、この誤解だとか、誤解ではないですけど、うまく利用の仕方というのを、柔軟にやっていく方法、仕掛けを考えなくてはいけないですね。こういう話を今後深めていければいいと思っております。ありがとうございます。

高橋さん：成功事例といえますか、腐葉土ボックスを作ることによって、落ち葉ごみの排出をゼロにして、その落ち葉ごみを、今度は花壇の花の育成のほうに転用するという形で、よくいうリユース、リデュース、リサイクルというようなことを公園の中では実現しております。

そして、高齢化、少子高齢化という言葉いただきますけど、高齢化とかというのは、ちょっと言葉自体が、あまりよろしくないのではないかなと。それは、私たちは知恵袋世代と。知識を、私たち、私は若くはないんですけど、私たちの世代からもっと下の世代に伝達してくださる頭脳ですよ、というお立場になっていただいて、公園の中で花壇を中心に活動を始めるとか、今日も実はちょっと雨になってしまったんですけど、公園のイベントを計画しておりました。延期をしましたが、ミニキッズニアというんですかね、東京都内のほうにある子供が店長さんになって会社にいるような形で、縁日をやりましょうと、子供縁日を、今日、計画しておりました。

そのような形で、近隣の方が、協議会の方が非常にアイデアを出して活動してくださっている我々の団体なんですけど、1つ課題と言えば、皆さんの公園のところでも1つ課題があるとすれば、公園の前面には必ずごみ置場があります。あれって、カラス被害とかの安全面、利用者側の安全確保にあまりよろしくないのではないかと、できれば環境局の方たちと、道路公園センター様とかが協力して、何か解決策をご検討いただけると、さらにその公園が使いやすくなると考えております。

市長：ごめんなさい、僕、ちょっと今、聞き逃したかもしれませんが、ごみ箱があるというのがよろしくないということでしょうか。

高橋さん：我々協議会のほうは、公園の中で発生したごみをばいと捨てられるので、ごみ箱があっても非常にいいんですけど、それが荒れてしまうと、容量オーバーになって生ごみが散らかるとか、非常に多いんですね。

私どものところ、実は協議会自体は15件あるんですけど、ごみ箱が28軒で1か所、市のほうからの推奨は10軒で1か所と言われているのに、28軒で1か所で、必ずごみがあふれる。公園利用したい方も、公園の中はきれいに清掃しているんですけど、周りが汚れていて入りづらいというような問題が発生します。

町内会が悪いわけじゃないんですけど、町内会にお願いしても、やはりすぐには動けないじゃないですか。なので、私たちが小さな町内会、協議会なんですけど、小さな町内会だよと言って、問題はどんどん自分たちで解決していきましょうというような行動を起こしております。

市長：ありがとうございます。

しかし腐葉土の循環のところから花壇のとかというのは、すごくいい取組ですし、高橋さんのところは、知恵袋世代の方から引き継いだ形なんですか。

高橋さん：実は、協議会自体は今年の1月1日に発足させていただいて、私が初代の会長をやらせていただいております。

市長：そうなんですか。

高橋さん：その中で、近隣に建設会社の社長さんとかがいらっしゃいまして、協議会の会員さんなんですね。

よし、腐葉土ボックスを作ってやるよとか、ここにパンジーを植えてくれないとか、いろんなご要望をいただきまして。柵を作ってくださいたり、どんどん皆さんで意見を出して改良をしていって、道路公園センターさんにこういうふうな使い方をしたいですという許可をいただいて、動いている形でございます。

市長：なるほど。ありがとうございます。

先ほどの川鍋会長のお話じゃないですけど、いろんな人たちを巻き込んでいるというのが、すごい形で回ってきているんですね。ありがとうございます。

川鍋さん：ごみ箱は撤去しちゃったほうがいい。

市長：なくしちゃったほうがいい？

高橋さん：うちももうありませんので、ごみを捨てる人はいません。

市長：これ、私、市長への手紙で結構多いんです。ごみ箱をつけてくれというのが。

川鍋さん：撤去しちゃったほうがいい。

市長：なるほど。これですね、公園問題って多岐にわたっておりまして、街路樹の話もそうなんですけど、切ってくれという人と、絶対切るなという人で、全く違う方向なので役所もジレンマで、どっちにしたらいいのか分からなくなってしまうということなんですけど。

実はごみ箱問題もそうで、さきほど塩沢さんからは毎日のようにごみを拾っているけれども、いっぱい出てきちゃうから疲弊しちゃっているというお話がありましたけど、ごみ問題だけに限らず、皆さんからの意見を聞いて、どんなふう感想を持たれたでしょうか。

塩沢さん：まず、ごみ箱の問題なんですけれども、私は基本的に持ち帰ってもらいたいと思っているので、なくてもいいと思っているんですけれども、ただ、ベンチの周りのごみが散乱し、なおかつわざわざ隠すように、斜面の植込みにごみを捨てられるんですね。そうすると、こちらの拾うほうも斜面を滑って転ぶのをよけながら、それから、枝が眼に突き刺さるのを気にしながら拾うような感じで、もうそれだけでくたびれてしまうという問題があります。

それで、ごみ拾いは本当に気持ちがすさむので、精神修養が必要だと思うんですけれども、もう1つの花壇のほうは、やっぱり楽しいんですね。育っていくのを見るだけで、自分も癒やされるという楽しさがあるので。ただ、これ、ちょっと2つあるけれども、ごみ拾いに関しては、子供や若い人たちが年に1回だけでも手伝ってもらえれば減るんじゃないかなという問題があります。

それから、花壇についてはやっぱり継続的に毎日のようにやらなきゃいけないものなので、若い人が手伝うのは難しいかなというふうにも思っていて、それはやっぱり、ちょっと高齢の人に頑張ってもらったほうがいいかなと思っています。

今の私たちがやっている三田第4公園は、小学校と保育園に隣接しているので、子どもがとてもたくさん遊んでいる公園なんですけれども、高齢者は意外に来ないんですね。なので、高齢者の人にその公園に関心を持ってもらうためには、高齢者用の遊具を私は置いてほしいと思っています。広い公園なので、1周回ったら一通りの運動ができるような、午後、子供たちはいっぱい遊んでいるし、朝は犬の散歩の人たちがいっぱいいるので、午前中は結構公園ががらがらなので、その時間に高齢者の人たちが来てくれて遊具で運動をしてくれたら、その公園に対する愛着が湧いてお仲間が増えるんじゃないかなというふうにとちょっと期待しているので、それが1つの課題かと思っています。

私たちの公園では、数年前に亡くなった方が毎日のようにごみ拾いをしてくださっていたんですね。それで、自分たちが拾うたびに、偉いな、あの人は、この葛藤を乗り越えて掃除をしていたんだなとい

うのが、それを毎日思い出しながら、負けちゃいけない、私たちも頑張らなきゃというふうに思っています。

市長：ありがとうございます。本当に精神修業が必要だという、何かやっぱりすごい世界だ、本当にありがとうございます。

お礼を言わずにはいられないんですけども、「逃走中」って番組をご存じですか。実は高津区で清掃活動を「逃走中」にかけて「清走中」というタイトルにして、みんなでこれも全世代が集まってゲーム感覚でごみ拾いをするというのをやって、事前からもものすごい申込みが多いというふうに聞いていて、そういう意味ではいろんな仕掛けが可能なんだろうなと。

先ほどもお話があったように、ちょっと楽しむ感覚というのがないとなかなか持続可能じゃないと思いますよね。みんなが頑張り過ぎちゃいけないというのは、塩沢会長、すごく責任感が強く頑張っているんですけども、寺田さんのさっきの話もそうですけど、楽しみながらローメンテナンスでいくというのも大事なポイントですよね。何かポイントはありますか。

寺田さん：そうですね。やっぱりローメンテナンスはかなり心がけています。私たちも、毎日、公園花壇を見るけどメンテナンスまではできないので、植えっ放しで大丈夫なもの、放ったらかしでもある程度四季を感じられる植物というのを選ぶように心がけています。

あと、最近の取組としては、保育園の協力ができて。園児たちが平日午前中に公園にいつも来て花壇に水をあげてくれる取組が始まったので、そんな形もありだなというふうに思っています。

市長：先ほどの球根を投げるって、あれはどなたが紹介していただいたんですって。球根は面白いですよね。

寺田さん：あれもそういう事例がもともとほかであって、それを簡単に取り入れられそうだったのでやってみたという形ですね。

市長：僕もイギリスの番組を見ていたら、フラワーボムといって花種爆弾なんですよね、だんごの中に種を入れてちょっと汚そうなところに埋める、子供たちと一緒に投げると、自然に生えてきたのがものすごくきれいな花になっているのを見て、これはすごく面白いなと、それをイベント化しちゃうという、いわゆるちょっとどぶとか、汚いところにこそまくみたいな話をやっている事例を見て、こういうのも面白いなと思いましたね。ありがとうございます。

じゃあ、ちょっと若い人たちの意見を聞いてみたいと思います。

それでは、せっかくですからカリタス学園のバスケット部、バスケット部なんですけどすけっと部なんです、バスけっと部、すごい名前です。皆さんの課題とか自分たちが取り組んでいることから、自分たちだったらどんなことができるかな、みたいな視点があればちょっと教えていただけますでしょうか。

山田さん：普段はバスケット部ということで、バスケットボール部でバスケットボールをやっているんですけど、特に話を聞いていて、川鍋さんの公園が私たちの通学路で、いつも横で通っていて、小さいかわい保育園の園児たちが遊んでいるのを見て、声を聞いてこっちが元気になることが多くて、学校単位でお手伝いをさせていただいたら、人数も稼げるし、結構私たち若い世代は公園を管理している方がいらっしゃるといふことをもともと知らなくて、勝手にお花が生えていて勝手にきれいになっていると思

っていたので、学校単位で何か整備のお手伝いをさせていただけたら、公園を整備しなきゃいけないということを学生がもっと身近に知れて協力できると思ったので、もし何か活動をするようであれば一緒にしたいと思っていました。

市長：うわあ、ちょっと拍手して。山田さん、すばらしい。というのは、やっぱり知らなかったと、誰がこれをやってくれていたのかというのを知れて、だったら自分たちもというそういう発想になっているって、やっぱり知らないというのは、さっきお話しいただいたように、誰がやっているの、どこに話をつければいいのかもそもそもよく分からないというお話がありましたけれども、奥川さん、いかがでしょうか。

奥川さん：今、話を聞いていて全くそのとおりでと思います。簡単に言うと、各公園にそれぞれの愛護会とか、自分たちの活動の広報をやるのがいいのか。ただ、広報の仕事って、それ自体が実はかなり作業量として負担なんですよね。当然、行政の方々はご存じだと思いますけど、広報の仕事そのものは1つの仕事なんです。だから、そういう部分を行政がサポートしてくださるのは非常にありがたいと思います。つまり、実際の現場はみんな自分たちの思いがあって、ただ、それを広報するというのは別の仕事じゃないですか。そこをサポートしていただけるというのは非常にありがたいと思います。

だから、各公園に全部、愛護会なりなんりの広報用の掲示板をつくり、誰に、どこに、いつ、どういふふうに行ってくればいいのかと、そういう活動であれば何となく通りかかっている人たちもみんな、何をやっているの、どこに行っているの、誰に言えばいいのかということが1つ。

あと、ちょっとこれはついでに、マイクをもらっちゃったので、今これは愛護活動の話の中なのであれですけど、管理は何のためにするのか、活用するためにするんだ、管理・保全を一生懸命やると誰も使わない公園が1番いいんですよ、1番きれいになるんですよ。ごみも誰も持ってこない、誰も入れてあげない、そういう公園にしたいかというそういう問題なんですよね。使えば汚れる、使えば何か起こる。管理運営というのが管理のために管理しちゃう駄目だよという話、そこをちょっと1つ入れてこの先の話になるといいと思いました。

市長：ありがとうございます。奥川さん、すごくいい軌道修正をしていただいて、ありがとうございました。

誠にそのとおりなんです。誰も使わない公園は絶対きれいになっているはずなので、みんながどういふ公園でどういふふうにつながる場所にしたいかということを考えた上で、そのためにどういふふうにつなが可能な形にしていくのかというのが大事だと思いますので。

実は、先ほど区役所のほうから説明がありましたけれども、来年の100周年の象徴的な事業で全国都市緑化フェア、Green For Allと、全ての皆さんに緑をというふうな話でありますけれども、これはキーワードが「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」というテーマにしております。ですから、身近な緑である1つの公園というものを使ってどうやってみんながつながるか、緑でつながられるかということをやっていく。そうした意味では、この公園の話ってとても意味がある話だと思います。

今、広報の話が出ましたけど、これをつくっていただいたの、すごいですよね。162個、多摩区に公園がある中で、もう139とおっしゃいましたっけ。

有北さん：はい。

市長：そこまでまとめてつくっていただいたと、現地取材を全部やって。

有北さん：はい。

市長：すみません、ちょっとコメントをいただいていいですか。

有北さん：これをつくるにあたっては、ネットワークのメンバーだけではとても人手が足りないので地域の親子さんとかシニアの方に公園探検隊ということで、最初の初版のときからいくつかつ探検をお願いしてやっております。

そうすると、ふだん通り過ぎてしまう公園なども入って行ってきめ細かく見ていくと、実は雑草がぼうぼう生えていたりごみが捨ててあったりというのに気がついて、ああ、これはまずいということで、実際の例として、子ども会でこの公園を使うことにしてみんなで整備を始めましたというような事例も生まれています。

ですので、やっぱりいろいろな方にまず知ってもらおうというのが一番大事かと思っておりますので、アンケートにも書かせていただいたのですが、このブックの探検だけではなくて、地域で例えば小学校区とか中学校区で公園探検隊みたいのを組織して、身近な公園を見て回るというようなイベントをやってもいいのかなと思っております。

それから、ブックをつくるにあたって回っていきますと、愛称のついた公園がいくつもあるんですね。ピエロ公園とかマムシ公園とか貝殻公園とか、そういう公園は利用者が非常に多くて愛護会もあつたりする。だから、身近に感じるということを見ると、その公園ごとに愛称を募集したり何かキャラクターのモニュメントを意見を募ってつくってみたりとか、そういうことで少しでも興味を持ってもらうということをうまく仕掛けていくと、身近な公園は自分たちで何とかしようというふうになっていくのではないかと思います。

市長：ありがとうございます。なるほど、やっぱりいろいろな方のお話を聞くって、勉強になりますね。愛称をつけちゃうと。何々第三公園とかいろいろありますけれども、愛称になっているところは確かにいっぱいありますよね。先ほどの三角公園というのもそうでしょうし、たこ公園とかいろいろなところがありますものね。ああいう何か子供たちにもみんなから親しまれるような、さっきの事例でもありましたよね、スポットというお話がありましたし、だからやっぱりそれぞれの特性を知る、みんなで考えてみるということがすごく大事なのかなと今も考えました。

もう1つ、若い方の意見ということで、西村さん、明治大学のボランティアサークル。

西村さん：今回の意見について、子どもの外遊びさんとかの意見を聞いて、看板を設置したりという意見って、何かすごいいいなと思って、自分も一市民の意見として、やっぱり公園って普通に管理がされているというのがあまり認識されていないというか、もう常にそういうものだと思っていたので、管理がされているというのを注目というか、みんなに意識してもらおうようにするには、さっきの師岡さんの公園の球根ばらまきイベントとかあったと思うんですけど、そんな感じで人が人を呼ぶみたいな感じで、その公園のふだんの維持活動でもただ普通に大変なんだと思うんですけど、そこにちょっとプラスして、公園の魅力というのを高めていくと好循環が生まれて、結果的に長期的にみると管理というのが、1人当たりの負担というのが少なくなってくるのかなと感じました。

市長：ちなみに、西村さん、公園で遊んだりしますか。遊ぶというか、集ったりとかしますか。

西村さん：小学生の頃まではあつたんですけど、大学生になってからというのはあまりなくて、でもたまに

友達とスーパーで焼き芋を買ってその後、公園で一緒に食べたり、そんな感じです。

市長：なるほど。それはいい利用の仕方ですよ。ありがとうございます。

いや、実はその公園、利用している世代とか利用している人というのは、結構偏りがあるのではないかと感じています。でも、もっと面白く使えるともっと楽しくなると思っていて、実は僕も先ほど奥川さんの最初の自己紹介のときのご発言って、結構大多数の市民が思っている意見なんじゃないかと思うんですよ。

公園って、誰がやっているんだろう、どこに話をしたらいいのかとか、ここでちょっとたきびイベントをしてみたいとか、あるいはここに椅子を持ってきて座ってもいいですかというふうな、ちょっと駄目そうかもしれないと、看板を見るといろんなことが駄目っぽく書いてあるので、一体何ができるのかがもうよく分からないし、どこに連絡したらいいのかと若干抵抗があるんじゃないかと。

実はこれは、さっきも控室で話していたんですけど、これは例えばボール遊びをする、危ない、近隣に飛んでいく、窓ガラスが割れる、ボール遊びはやめてください、小さい子供さんがいるからここで硬いボールで遊ばないでください、いろんなことを全部狭めていったんですよ。住民の皆さんのご要望にお応えするような形で苦情を、これも駄目、これもちょっとやめておきましょうといったことによって、だんだん暗黙のルールのように、あまりやっちゃいけない公園というふうな形に、だんだんなっていった歴史があると思うんですよ。

だから、はっきり言って、みんなの公園なのにあまりみんなの公園になっていなかったりする場合もあるというのは、ここはちょっと大転換していかなくてはいけないのではないかと思うんですよ。

先ほどのお話じゃないですけど、みんなが活用して楽しめる、憩える、つながれると、そうしていくためにはもっともっと僕たちのこの公園の利用の仕方、そしてルールのつくり方というのをみんなで考えていくとしていかないと、誰かが一生懸命頑張っているんだけどそのことが理解されないというふうなの、こんなに嫌なことはないですよ。

だから、やっぱりみんなに知ってもらおうということはすごく大事だと、山田さんの話もすごくストレートに入ってきましたよね。ああ、こんなになっていたんだ、やってくれていた人がいたんだというのをまず知ってもらおうということも大事だし、うまく楽しく活用するというのもすごく大事だと。

実は、麻生区でこの公園の話をやったと言いましたけど、ある公園管理運営協議会の方々が、若い人たちがぜひ参加したいというお話があったんです。ただ、清掃活動だけには呼ばないでくださいねというふうな話が実は学生さん側からもあったんです。ただの労働力として使われるというのは面白くないと、だから一緒にやるんだったら、一緒に企画して一緒に楽しみたいという話がありました。

どうでしょう、ソーシャルデザインセンターの皆さんは、いろんな楽しいことというのは地域の皆さんのつなぎとしてよくやっていたらいいと思いますけど、コメントをいただいているいいですか。

佐山さん：多世代交流と持続可能な公園という点で、ちょっと前向きな話ができたらなと思います。

そういえば、今日この生田出張所の入り口のところの足元に生田小学校の4年生がつくってくれた植木鉢、プランターが置いてあったんですね。僕も生田に住んでいるんですけど、ここら辺一带は生田小学校の方が置いてくださったプランターというのがたくさんありまして、僕たちはこども食堂を通して地域の小学生の方々と交流があるんですけど、多摩区は結構小学生・中学生だったり、学生がすごく多いんですね。あと、高校生だったり大学生がすごくたくさんいて、だからすごく多摩区は若い世代に恵まれた、言い方はあれですけど、人的資源に恵まれたまちであると私たちは考えています。

登戸・たまがわマルシェなどを行ってもすごく若い世代、子育て世帯であったり、大学生、高校生の方がたくさん来てくださる。ただ、そういった方々が維持管理のほうになかなか参入できていないとい

う現状があるとお伺いしました。

先ほど、NPO birthの佐藤さんがおっしゃっていたように、維持管理をする方々と利用・活用する方々が分離している現状にあると、そういった僕たちを含め利用する人々が参加できるような入り口、きっかけができたらいというふうに今考えているところでして、現在取り組んでいるものが一応あるんですけど、具体的には、僕たちはこども食堂で小学校とつながりがあるので、そこで子供たちが育てた朝顔の種を今回頂きまして、それを今度、登戸・たまがわマルシェのほうで種を配ろうと考えています。これは配ることが目的ではなくて、実際にその地域の方々が育てた種を身近に触れて、それで緑への興味・関心を持っていただくという取組ですが、今後もそういった緑への興味・関心を地域の人々に持っていただきたいと強く考えています。

僕たちは学生主体なので、小学校、中学校や高校、大学の方々が一時的ではなくて持続的に参加できるようなプログラムを今考えているところなので、ただ、具体的に何をしようかというのはちょっと今意見をたくさん出し合っているところなので、先ほどあった公園探検隊の話だったり、看板をつくるという話だったり、一時的に清掃活動なんかで大学生が参加するのではなくて、持続的に高校生、大学生の方が、多摩区に住んでいる学生のみんなが参加できるような、そういったきっかけをつくるのができたらいいなと思いました。

市長：すばらしい、ありがとうございます。

いかがですか、今のお話を聞いて、例えば今後なんですけど、もう今日お集まりいただいている公園管理の協議会の皆さんというのは愛護団体としてはかなり活発に意識も高く活動されている皆さんなので、こういうところからマッチングじゃないですけど、1回ワークショップじゃないですけど、自分たちはこんなことができる、逆に愛護会からはこういうことは要らないんだという、こういうのは一緒にやりたいとかという話を、一緒に考えていくものがあるといいかなと思いますけど、どうでしょう。

高橋さん：実は私たちもいろんな年齢層、地域の保育園、小学校、中学校、大学、この方たちもやっぱり知っていただいて来ていただきたいということを考えていました。

まず初めに、近隣の子供を見ていて公園の空いているスペースでトマトとかいわゆる食育ですね、というのから巻き込んでいく、保育園の子たちでもいいですし、呼んで、ここで育ったね、出来上がったね、じゃあ、食べてみようかという形で、学んでもらう場に活用できるのもいいと思っておりました。ぜひその地域連携、全体的に実施できれば。

市長：そうですね。

これは、実は最後のほうに区長にまとめてもらおうと思ったんですけど、車座集会、いろんなパターンがあるんです。これまで区で取り組んでいる間に車座集会を挟むパターンと、実は麻生区の場合はそうだったんです。地域デザイン会議で麻生区の場合、公園のことでずっと議論を重ねてワークショップもやって、その後半戦にこの車座があって、さらにまた続くというのがあるんですけど、今回の場合はまず初めのほうですよ。まず、ここで課題意識を共有して、ここから始めて区取組につなげていこうという起爆剤の会なので、そういう意味では大分何となく意識が、熱量が上がってきた感がありますね。

藤井区長：今、市長のお話にあったように、今回、市としても新たな取組で、多摩区としても今回やっぱりキックオフというか、スタートをこれで切っていきたいという思いがありますので、今日、大分皆さんのお話、いろんな方のお話が共有できて、まさしくマッチングという話もありましたけど、もうすぐに

でもいけそうなところもあると思いますので、長い部分と、それから短い部分とで分けていって、引き続きこれはやっていきたいと思っていますので、ご協力をお願いしたいと思っています。

市長：ありがとうございます。

さっき、佐山さんに話していただいたので、もう1人の多摩区のソーシャルデザインセンター、京野さんからコメントをもらっていいですか。

京野さん：私が思ったのは、さっき広報面は行政のほうにお願いしたいという話もあったんですけど、先ほど佐山のほうから申し上げたように、私たちは毎月、こども食堂で地域の小学校、いろんなところとつながりながらチラシを配っています。そのつながりを利用して、そういうチラシ配り、直接手に届く形で広報活動としてご支援できたらなというふうには思いました。

あと、その前に櫻井様が、公園はあるけど地域の方に使ってもらえないというお話があったと思うんですけど、市長もさっきおっしゃったように、校庭開放という事業に関して、私たち、東生田小学校というところでドッジボール講座を開催したことがありました。それに関しては、東生田小の児童の方向けだけにチラシを配布して、そこの地域の方々に東生田小の校庭でドッジボールをしてもらうというふうな感じをやったので、ぜひ地域の方に公園を使っていただきたいというふうであれば、そこの地域の小学校にチラシを配布するという形で何か力になれたらと思いました。

あと最後に、掃除とかごみ問題の話もあったと思うんですけど、やっぱり掃除をしますというふうに言うてくるというのはちょっとあれかなと思う人も多いと思うので、私たちが最近したのは、登戸・たまがわ運動会というものをやって、そのイベントの後にみんなで掃除しようという時間をつくりました。そういうふうになんか楽しみも加えながら、その後にみんなで掃除しようという流れになると、みんなにやってもらいやすいのかなと感じました。

市長：ありがとうございます。すばらしいですね。

やっぱり得意分野がそれぞれあって、ソーシャルデザインセンターのところというのは、もうびっくりしたんですけど、多摩川のイベントをやったときに200人ぐらい学生さんが来ているんですよ、大学生。どこから来たのかというぐらい、やっぱりロコミカというふうな学生さんたちの中でもすごく、こういう方たちが地域のためにと地域をもっとよくしようという活動をやってくれるとすごく心強く感じます。

こうやって、SNSも得意だよとか、あるいはロコミ、手でチラシを配ることもできますという話もあるので、逆に年配の方ではちょっとやりにくいなとかというふうなものというのが、実は若者のほうが得意だったりするので、そこをうまく組み合わせると多分いい形になりますよね。

カリタスの伊藤さん、お願いできますか。

今までのところで感想でも結構ですし、自分たちでこういうことができるんじゃないかみたいな話があれば。

伊藤さん：公園の愛護活動団体は、若者があまり知れていないという現状の対策の案としてなんですけど、私たちの学校で今、部活ごとの団体とか、あと奉仕活動を行っている団体というのがすごく増えてきているという感じなんです。なので、そういう団体とその地域の方々と協力して何か実現できたらいいと思っています。

市長：ありがとうございます。バスケット部だけじゃないんですか。

伊藤さん：はい、そうですね。

市長：その奉仕活動をやっているのは。

伊藤さん：はい。部活でやっているのは私たちだけなんですけど、奉仕活動を目的としてつくられた団体がたくさんあって。

市長：学校内にですか。

伊藤さん：はい。

市長：すごいですね、カリタス。ご紹介いただいてもいいですか。皆さん、知りたいですよ、そんなにいいのって。いや、逆に実は、こういう学校単位だとか部活動単位だとかサークル単位でというふうなのは、非常に、年代が代わっても先輩から後輩へと引き継がれるので、個々人でつながっているよりもかなり持続性が高いんですよ。だから、この地域の人たちが例えばバスケット部、あるいはこの地域の方には何々の奉仕団体とかというふうな形で、いい関係ができれば面白いですよ。もう1回、いいですか、伊藤さん。どうでしょう、こういう話というのは。

伊藤さん：何かすごくいいなと思います。

市長：本当ですか。

伊藤さん：はい。私たち、運動部で体力もあるので何でもできます。

市長：すばらしい。ありがとうございます。

伊藤さんのこういうコメントを聞いていかがですか。

高木さん：ちょっとカリタスさんを宣伝に使っちゃおうかなと思うんですけど、はぐるまの会です。

福祉のほうからも、こういうところで参入していかないといけないかなと思っています。得意分野もたくさんあるし、働けるというところでは、何かしら皆さんとつながっていける1つの大事な要素だと。カリタスさんとは、もう30年も40年も前からご一緒している学校さんなんですよ。ご一緒にいろいろなことしてきたし、ここにもいるんだとなるとご一緒したいなという思いも今日持っていますので、いろんな方たちとやっぱりつながるということでは、福祉の分野もぜひ参入させていただけるように考えていただければなと。願わくば、お仕事として参入していけると大変助かるというところがあります。

市長：それはありますよね、あります。仕事としてもあると思います。ボランティアとしてということもあるでしょうし、本当に仕事としてというのはあると思いますね。

高木さん：そうですね。持続可能と考えたときに、それがあるとずっと続きます。そういった役目も1つはあるんだということを今日ちょっと再確認したので、また現場に持ち帰って、何ができるのか、どういつながりがあったら皆さんとご一緒できるのか、ちょっと現場でも考えてきますので、ぜひそうい

った方向でもお見知りおきくださいということで、今後ともよろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。いいですね。緑×福祉ということもそうです、公園×福祉もそうですし、いろんなことができると思いますね。公園×スポーツ×福祉でもいいし、いろんな掛け合わせ方というふうな結構無限大にできるようなことだと思います。ありがとうございます。

特に、知的障害の方の得意分野とかというのがやっぱりありますものね。はぐるまの会さん、いろんな取組をやっておられますけれども、ハーブを育てたりということもやっておられたり。

ある団体は、図書館とか学校とかの図書館にある本にプラスチックのブックカバーをかけるんですね。この仕事というのは、障害特性としてすごく向いているところがあって、実はそのある株式会社のところ、そういう方たちにこの仕事をお願いして、仕事として出しているという話がありました。

これもやっぱりすごくお互いがいいところ、得意な分野を出し合うということなので、さっきの若者だからできること、あるいはこういう障害特性があるからこれはもう本当にスーパーにできる方がたくさんいるので、そういう組合せ方というのをみんなで知恵を出し合っていると、もっと素敵かと感じました。今までのところから見て、birthの佐藤さん、いかがでしょう。

佐藤さん：本当に、多摩区でいろんな活動がなされていると伺っておりました。

今日は、こういう課題解決ということがあるんですが、私たちも非常に市民団体さんの高齢化とかいろんな課題というのをご相談されています。

1つ、すごくいい方法がありまして、やっぱりやりたい人はすごく多くて、先ほど寺田さんからもしじりしたい親子さんも多い、子どもたちにさせたいということもあって、やりたい人はすごくあるんだけど、愛護会にどうやって入ったらいいんだろうとか、何かきっかけがないと入って出られるのかなとか、入り口はあるけど出口はあるのかなとか、その辺りもあるので、私たち、よく「ちょいボラ」といいましてちょこっとボランティアの体験というのをしています。

そのときだけ来て、ボランティアをするので特に入らなくてももちろんよいということで気軽に参加できるのと、あと、「ちょいボラデイ」と「ちょいボラウィーク」と2つあるんですが、デイだとそのときに来て30分ぐらい皆さんと活動して、そうすると顔の見える関係ができて、また来ようとか行く行くメンバーになってもいいかなと思ってもらったり、あと、ウィークというのがありまして、これはよく夏休みにやっているんですが、ボランティア、いつでも来ていいよ、草取りしてください、ラジオ体操みたいにカードにスタンプを押してもらおうというのをしています。

今、ボランティアの宿題が結構夏休みに中学生はあったりとか、そういう子たちがすごく来てくれるのと、あと、親子も手持無沙汰でどうしようというところで来てくれるのと、集まるとすてきなプレゼントじゃないですが、シールがもらえるととか、そういうのですごく来ていただいています。

そういうのって、地域のボランティアセンターと連携するとすごくよくて、ボランティアセンターには大学とかそういう学校のボランティアグループもすごい登録していたりするので、じゃあ、こっちに紹介しようとかそういったつながりができてくると、非常に皆さんが来てくれるようになって、行く行く会も活性化していくということになると思います。

あと、寺田さんのほうにちょっとさっきお聞きしたら、園芸のすごく花壇のクオリティーが高いので聞いてみたら、園芸店さんと連携されているということで、そういう地域の事業者さんと連携していくというのも、すごくお互いウィン・ウィンになると思って聞いていました。

いろんな工夫があるかなと思いますし、皆さん自身がお互いにいろんな活動に行ってみるというのもすごくいいなと思っています。何か集まるというのもすごくよくて、皆さんの活動を回ってみると、それぞれ学び合えることがたくさんあるのかなと思っておりました。

市長：公園緑地協会から浜田さん、野牛さんに来ていただいていますけど、本当に好事例をいろんなところで取り上げてもらっているという意味では、公園緑地協会は花と緑のコンクールをやっていただいたり、市内で好事例をすごく出しているというのと、それからいろんな団体とつながっているという意味では緑地協会が一番つながっているんじゃないかと思えますけど、これまでのところを聞いていてどういうふうにお感じになっていきますか。課題は分かっているんで、課題解決に向けての方法が、前向きな話がいいですね。

野牛さん：1年間に100件を超える愛護会や管理運営協議会の依頼をいただいて、公園に行ってマッチングしたりとか、あと、カリタスさんなんかも、たまたま道路公園センターにカリタスさんがほかの緑地で、150人で学年で活動したいという申請を出しにいったら、麻生区でやる予定だったので、そこに行くよりも通学路のところのツツジが実はちょっと地域とはもめていたんですね。通学路で登下校がうるさい、生徒会でもすごく課題になっていて、貼り紙が静かに歩きましょうとか、先生引率で歩いたりとか、一番困っているのがツツジが大きく育ち過ぎて雨の日にスカートがぬれるとちょっとカリタスらしい苦情で、じゃあ、ちょうどそこで剪定作業なんかをすると、地域とも仲よくなれるしいいでしょうと。

実は今、奉仕団体、奉仕グループ、たくさんあると言われてたんですけど、大人の世界では結構ハードルが高くて、まずその150人で山で奉仕活動をするときには、革靴じゃなくて登校していい許可を取ったりとか、ちょっと特殊なあれがあるでしょう。制服で登下校しなくちゃいけないのを、作業ができる服装でその日は登校できるとか、そういうのをクリアしながら、あとは刃物は危ないんじゃないかとか、そういうのを実は縁の下の力持ちで調整をしました。先生方も結構心配されている先生とか、ご父兄もたくさんいたのを長年かけて説得していくというか、何かそういう形でした。

市長：むちゃくちゃいい仕事をされていますね。

野牛さん：そうです。あんまり縁の下の力持ちでなかなか目に見えないんですけど。

当初は、活動支援という形で道具の貸出しだけだったんですよ。だから、うちに、等々力に取りにくるとのこぎりとかはさみとかを貸してあげて、自分たちでやりなさいという形だったのを、スタッフつきの車つきの指導つきで、10人に1人スタッフがついてやるというところで、学校さんなんかも、先生方もそれだけスタッフがついて目を配ってもらったら安心かなというので、許可が取れていったんだと思います。

あと、あわせて行政にですけど、広報の話、やっぱり年配の人は市政だよりに載るとちょっと安心感があるんですよ。遠くから引越してきた人も、市政だよりに載っている情報でそこに行くというのは、安心感があると思うので、即戦力としては若い人たちのチラシだとかだけど、やっぱり市政だよりの多摩区版に、いつ、こういうイベントがあるからというのがあったり、あと、管理運営協議会の入り方とか民生委員の紹介とかをやるじゃないですか、あれと同じように年1回は公園はこうやって市民が管理してくれているというのをちょっと広報してもらおうと。

市長：それはそうですね。今度、市政だよりでやらないといけませんね。公園のこういう方たちがやってくださっていると、一緒にやりましょうという。確かに、ありがとうございます。

ちなみに、ツツジで近隣のうるさかった問題は和らいだんでしょうか。

野牛さん：もうばっちりです。

市長：本当に。

野牛さん：実は通学路が長いので、反対側は町会さんを説得して町会さんのグループでやり始めたんです。そこは、街路樹愛護会という形で登録してもらって、カリタスのほうはカリタス側からやっていって、もうすぐで開通するはずなんですけど、大分もう腰高だったのが低くなっているの。学生さんも、何か清掃活動だけで呼ばないでという話がありましたけど、剪定作業は人気がありますよ。大人は清掃活動だ、ごみ拾いだけは嫌だと思って来てくれないと思うんですけど、こども文化センターとツツジの剪定をしても、今、清掃に出すのに30センチに切って出さなくてはいけないんですけど、大人が思いっきり倒した後のぼらしとか子どもたちは大好きなので、単なるイベントだけじゃなくて作業は人を呼べます。

市長：なるほど。

野牛さん：学生さんも多分のこぎりを使ったことがないと思う。楽しんでやれるので、当然木の手入れをしたら落ちているごみも拾うの。うちで一番嫌がったのは、犬の散歩のうんこを拾えという課題を、実は道路公園センターからいたいて、ボランティアがしたいならそれも当たり前でしょうと言われたんだけど、それはもう職員としても嫌だなどと思って、だからその辺をちょっと注意すれば、作業で人を、イベントで呼べます。

市長：なるほど。

野牛さん：あと、すみません、もう1つだけ。

市長：どうぞ。

野牛さん：あと、市内一斉清掃は売りです。市内一斉清掃って、結構町会に関心がない人も年に2回だか3回、半強制的に呼ぶじゃないですか。地域と仲よくしたいと思うので、随分若い人たちが出てきているので、それと協議会と、だから市内一斉清掃のゴールを管理運営協議会の公園にするとか、そういう入り口にぜひ使ってもらったら、行政とのタイアップには最高の入り口です。最初に緩やかに巻き込まれた、あれがいいですね。

市長：そうですね。

野牛さん：越してきたら、あの入り口が難しくて、やろうと思ったんだけど、どこで参加するのかなかなか難しいので、入り口として。

市長：そうですね。一斉清掃は、ややちょっと強めの巻き込まれ方ですけどね。

野牛さん：はい。でもいいですよ。

市長：でも、本当大事ですよ。

野牛さん：あれに入らないと気持ち村八分になるかも。

でも、あれでご近所の方が知り合えて、よく自己紹介をしていますよね。向かいが、いつも顔を見かけるんだけどどこの方かと思ったら、あの斜め前のお宅だったんですねみたいな自己紹介をし合っているの、災害の前にはいいと思います。

市長：本当ですね。素晴らしい。ありがとうございます。

野牛さん：ありがとうございます。

市長：さっきの櫻井会長のところのあのバスケット騒音問題も何か緩やかに、こういういい知恵が出てくると何か解決するかもしれないという明かりがちょっと差したような気がします。

先ほど稲田さん、ツツジの剪定なんかを子どもたちが結構楽しくやるよというのに、ものすごく激しく同意していただいていたけど、どうでしょう、子どもさんたちと学んでいる間に。

稲田さん：本当にそうだと思います。私たちは、プレーパークといってすごく小さくやっているもので、20年ぐらいにはなるんですけども、やっぱりのこぎりとかトンカチも使ったことがないというようなことはもう本当にあるので、やっていいよ、自分で好きなようにやっていいよという、もうすごく女の子でも目をキラキラしてやります。なので、それこそやっていいと言われれば、短く切るだとか、ばらすだとかというのって、すごく楽しむと思いますので、子供たちのやってみたいをプラスしていくには、すごくいい本当にまた相乗効果があると思います。

市長：そうですね。ありがとうございます。

佐々木さんのところはまだ公園ができていないけど、今からいろんなみんなのしたいとかという希望を募って、計画をされているということですけど、いろんなヒントが出てきたと思うんですけど、いかがでしょう。

佐々木さん：今日は本当に楽しいですね。

もう2年前ぐらいからミーティングとか月1回集まって、広場のお手入れというのは継続して、その中で、近隣の園庭のない保育園さんとかも結構多いので、そういうところから広場を園庭代わりに遊びに行って使って、その後、石拾いとかごみ拾いをして帰ってくれるというようなことも実際行われています。

それから、ベンチが欲しいねという話が出たときにメンバーで集まって、声をおかけしてみんなで角材を並べて6人ぐらい座れる大きなベンチを作ったりして、それもさっきおっしゃったように清掃活動だけとか草刈りだけじゃなくて、そこで自分たちで作ったものが置ける、そこでそれを利用してくれる子どもたちがまたいてというのをお互いに広場、まだまだ暫定的な広場なんですけど、そこでコミュニケーションを取れるものができるというのを実感して、それが実際の公園づくり、どんな公園にするかというところのヒントにもなっていると感じます。

公園以外の活動で、ソーシャルデザインセンターとか明治大学の学生ボランティアの方たちも、まちでやるイベントにいつも協力してくださっているんですけど、ぜひ公園のところでも連携してやりたいと強く思いました。

あと、ローメンテナンスの植栽の知恵もいただきたいなというふうに、いろんな世代が関わりながら負担が重過ぎず無理なく長く続けていける、一時的な盛り上がりじゃないようなやり方を見つけたいと

思っているところなので、ありがとうございました。

市長： それでは、今のところ、全員にお話を一通りいただいたと思うんですけども、あと残り10分ぐらいですので、私から指名というよりもまだちょっと話し足りないという方。

有北さん： 今日はいらしていませんが、地域にはこども文化センターというのがありまして、ここは0歳から18歳の子どもが使える施設であると同時に、今、地域の人たちとも結びつきを強めるようにということで、こ文さんが非常に頑張っているのも、こども文化センターを巻き込んだ何か公園に関係するような事業を積極的に進めていければいいのではないかと思います。

それから、奥川さんとか稲田さんとかと一緒に外遊びの活動ももう長年やっているんですが、公園ってやっぱり子どもが楽しく遊べる場所であってほしいと思うんですよ。

ボール遊びはいけないとか、大きな声を出しちゃいけないとか、どうしても近隣の方たちに迷惑をかけるんじゃないかという大人の余計な配慮で、子どもがのびのび遊べなくなっている事例も実際ありますので、そのところを解決するためにはやはり地域の中での結びつき、つながり、顔見知りの関係ができると、今大きな声で泣いているけど、あの子は大丈夫かなとか顔が思い浮かんで心配したり、ボールで遊んでいても道路に飛び出さないように、大人がちょっと見守ろうとか、そういう優しい関係ができると思うんですね。

そのためには、やはり外遊びというのはとても重要な要素ですので、公園で外遊びが自由にできるということを、もうちょっと大人の皆さんに強くアピールしていただければと思います。

例えば今、恐竜の着ぐるみを着て運動会をするというのが全国的にはやっています、SNSとかを見るとすぐ出てくるのでぜひご覧になっていただきたいのですが、そういうのを地域で世代を超えて公園でやってみるとか、それから私たちは長年訴えかけているんですが、多摩区にも子ども夢パークのような自由に泥んこ、水遊び、火も使える、そういうようなプレーパーク、常設のものをぜひつくっていただきたいと心から願っていますので、そこまで発展していただけると本当にうれしいなと思います。

市長： はい、どうぞ、奥川さん。

奥川さん： 今の最後に出たプレーパークの件、多摩区の第1回の車座集会のときにもお願いしておりますので、ぜひともよろしくお願いします。

私、今日、言いたかったのは、利用のルールは利用者の自治でというのは、そこは皆さんのところにお届けしていると思います。利用者会議みたいなものというのをやると、これは愛護とかそういう管理運営の側じゃなくて、使いたい人たちのミーティングをやるという話ですね。

これは、場所をどうするかという話があるんですけども、場所は公園でやるということを提案したいんですね。以前、私のうちの近所の公園で駐車場をつくるスペースが必要じゃないかという話があって、地域の人たちとそこの公園で会議をしようとしていたら、天気が悪くて駄目だったんですが、ただ、近所にテントを持っている団体っていっぱいいるはずですね。

例えば、危機管理担当とかに行くと防災用のテントを持っている町会がたくさんあるはずなんです。例えば、そういうところとも情報共有して近隣から借りられる、それで公園でやる、そうすると公園でそういう会議をやっているんだ、やりたい人ってそこへ行って話をしたいんだと周辺に対する広報周知にもなりますし、ただ、そういうときに会議の運営、ファシリテーションは行政のほうでやっていただきたい。

そういうことをお願いできたらいいということで、ちょっと2枚ほどにまとめたので後で事務局のほ

うにお渡ししておきます。

市長：奥川さん、今回、利用者の団体だけで会議をやるというふうな話がありましたけれども、やはりこれからは、今までの議論を通じてなんですけれども、利用者も運営者もみんなで議論をするということが大事だと思うんですね。

奥川さん：もちろん、管理上の問題って出てくると思いますので。

市長：誰かが管理しているということではなくて、みんなで運営管理、そして活用するというふうなのをやっているかないと、なかなか難しいですよ。

奥川さん：イメージは同じ。

市長：一緒になっています。

奥川さん：はい、イメージは同じです。

市長：そうですね。

奥川さん：ついでに、さらにそこが近隣の方の、例えばさっき言った音であるとか臭いであるとかそういうことに関しての意見を聞く場にもなれるように、例えばその利用者会議が年に1回ぐらいは近隣の方々にもちゃんとチラシを全戸配布して、公園について苦情があったら言ってくださいという、例えばそういう窓口にもなっていくということをやると、その場でまた話ができる顔が見える関係がだんだん出てくると。そういうことを考えている人がいるんだと、じゃあ、こういう形で活動している人たちがいるんだとか、そういうのを直接話す場をつくれる、それが大事なんじゃないかと考えています。

市長：なるほどですね。ありがとうございます。直接意見交換ができるところが大事だということですね。川鍋さん、手が挙がっている。ありがとうございます。

川鍋さん：ちょっと公園とは違うんですけども。

市長：どうぞ。

川鍋さん：私どもは多摩川に接してしまして、その下にカワノバという、ご存じだと思うんですけど、スケートボードをやるイベントを川崎市のほうでやっているんですけど、最初のごみの問題ですとか音の問題とかが出て、その辺、公園化していくと思うんですけども、うちのすぐもう真下なので、うちのほうでも何かしなきゃいけないなと思っはいるんですけど、市長さんのほうではどうお考えでしょうかね。

市長：ごめんなさい、どうというのは今後という意味ですか。

川鍋さん：今後ですね。

市長：そうですね。これは今、活用して、実際に皆さんからのご意見をしっかり聞いていかなくてはならないというふうに思っている段階です。できれば、スケートボードとかという音の出るものというのは、やはり住宅街の中というのは非常に難しいので、そういった意味では河川敷だとかというふうなのができないかなという調整をやっていますが、結果、皆さんがどういうふうに、利用者の方も、あるいは近隣の方もという形の意見をしっかり聞いた上で考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

佐山さん：先ほどマッチングという話があったので、ちょっと1つ提案があるんですけど、今、多摩区ソーシャルデザインセンターのほうで「たまなび」というのをやっています、それは高校生や大学生がボランティア活動をする入口をつくる、きっかけをつくるというプロジェクトになっています。

ボランティアというと聞こえはすごくいいんですけど、実際には労働力として一時的に使われてしまったりだとか、あるいはボランティアという名目だけ欲しくて来た学生が、実際やる気がないのに参加してしまうみたいなことがあるんですね。そういった懸念を解決するために、ボランティアのプログラムをつくりまして、そこに参加すればボランティアする側、そして主体的に活動することができるというウィン・ウィンの関係をつくることができるという内容になっています。

今のところ、高校生、大学生が小学生に対して、勉強を教えるみたいなことをやっているんですけど、このたまなびも今後、都市緑化フェアに向けて、緑化事業に参加していくことが可能になっているので、もしよかったら、愛護会や管理運営協議会の方とマッチングできたらと思います。

市長：ありがとうございます。

本当に多摩区のソーシャルデザインセンターってすごいんですね。7区それぞれに、これから立ち上がるところもありますけれども、多摩区が1番先行して、かつ、若い人たちが多くその担い手をやっていただいているというのが、もうちょっと多摩区は突出しているなという感じがしますが、それだけいろんな多世代の皆さんが関われる、つながる可能性を持っているところだなと感じました。ありがとうございます。

そろそろ時間になりましたので、最後、まだこれが言いたいよと、1分ぐらいで言いたい方って、いらっしゃいませんか。大丈夫ですか。

この公園の話とは別に、今、公共施設の地域化という話もやっているんですね。公共施設の地域化って、もともと公共施設は地域のもの、市民のものじゃないかという話なだけで、なぜ地域化みたいな話をしているかという、公共の施設の中でも使われていない時間だとか、空間だとかというのがまだまだあるんですね。意外と場所が足りないと言われるんですけど、実は使われていない時間があるとか、あるいはこういうことは活動制限されているから使いにくいということって結構あるんですね。

市民館の話にしても、貸会議室で飲食駄目とか物販も駄目ですと、いや、地域のパパママがいろんなクラフトを作って、商売をしているわけでもないのと、こういうのはやっちゃいけませんとかいろいろなことがダメダメのところがあるんですけど、それって、先ほど言った公園のと一緒なんですよ。

あれもこれもダメということをやっていったら、だんだん何のためだったけという話になってくるので、改めてこういうのって、自分たちでルールをちゃんとつくっていかうと、ダメダメ言うんじゃないかと、こういうことは可能、でもこういうルールでやっていかうということでないとおかしくなるからと、これは大事なんですけれども、そのルールを行政が一方的につくっていくという形ではなくて、私たち行政も実は非常に迷っていますということ全部さらけ出して、その中で、じゃあ、地域の特性に合った、例えば公園だったら、この公園はこういう特徴だからこういうふうに使っていかうとそれぞれのところでルール化していくと、みんなが楽しい、みんなが活用できる、つながれる場というのを、今

日2時間でしたけれども、若い人たちはこう思っていたのかということも改めて発見できましたし、こういういろいろな人たちが集まるといろいろなものが、自分の足りないものというのがあの人は持っているということを発見できたという会になったのではないかと考えています。

中間で区長に少し今後のことについて話していただきましたけれども、最後に区長から、今後どうしていこうということを少しお話しいただければと思います。

藤井区長：本日は本当にありがとうございました。

私が最初に感じたのは、やはり知らないということが、お互いのことを知らなかったり、何か知っているようで知らないということが身近にあって、そんなことが結構あるんだと思っていて、こういったいろんな立場の方、いろいろな活動をしている方々の活動内容とか、課題がこういうところで共有できたということは非常に今回、多摩区のキックオフと先ほども言わせていただきましたけれども、そのような非常に貴重な時間だったと思っております。

区役所といたしましても、せっかくいただいたアイデア、ご意見がいっぱいありましたので、その実践に向けて、また引き続き皆様方とお話を進めさせていただきたいと思っておりますし、すぐマッチングできそうなものもありましたし、またちょっと引き続き来年度は地域デザイン会議といったものも活用いたしまして、またより多くの方に参加いただきながら、もう少し深掘りしていって、令和6年度の緑化フェアにも何とかつなげていければなと思っておりますので、引き続きご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

市長：どうもありがとうございました。

今日は事例発表していただいたNPO birthの佐藤さんと寺田さん、横浜からも来ていただきました。本当にありがとうございました。大変参考になりました。

では、これはきっかけですので、これからが皆さん、連携のスタートということで締めたいと思います。本当にありがとうございました。

司会：皆様、ありがとうございました。2つ目のテーマとしておりました「より多くの人を巻き込むためのアイデアの実現に向けて」も、引き続きお話しいただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第57回車座集會を終了とさせていただきます。